

Indonesian government mum as AP reports H5N1 case CIDRAP, MN (米国) A P通信、インドネシア政府が無報告のH5N1鳥インフル死者事例を報告 2008/6/14

インドネシア女性が10日前に H5N1 鳥インフルで死亡したが、その事例は鳥インフル事例に関して無公表を続けているインドネシア政府からいまだ発表されていない。A P通信が本日報告した。

ニュースは、WHOがインドネシアが人の死亡例を報告すると約束したと発表した直後に伝えられた。WHOの発表によると、インドネシア政府は、世界保健規則に反するような、死亡事例を報告しないようなことはしないと断言しているとされる。しかしながらWHO当局者のコメントは先週、インドネシア保健相が発表した声明とは異なっているようだ。

6月5日、保健相のシチ・ファディラ・スパリ女史は、インドネシア政府はもはや人での H5N1 鳥インフル発症事例と死亡事例を、迅速に発表することはしないと語った。他の報道機関の説明では、彼女は事例を報道発表した後、または6ヶ月間隔で事例の”公式発表”をすることを考えているとされる。スパリ女史は、同国の鳥インフル対策が成功を収めることだけに焦点を合わせたいと語っている。

本日のA P通信によると、34歳の女性、スシ・リスナワチさんが6月3日に鳥インフルで死亡した。匿名の保健省高官と4人の保健当局者が、リスナワチさんの事例を確認していることをA P通信に語っている。しかし政府は、いまだ夫の、アリ・ウスマンさんに報告していない。同女性はスラエシ島北東部のビツン市に住んでいた。

当事例は地方のメディアでも報告されていない。A P通信で確認するまで1週間要している。

当事例はインドネシアで135人目の発病者で110人目の死者となる。WHOの報告では1

33人の発病者で108人の死者数となっている。WHOはいまだリスナワチさんと、先週スパリ保健相が発表した15歳少女の事例、同少女は5月14日に死亡しているが、を報告の中に入れてない。

WHOの高官であるデービット・ヘイマン氏は、昨日、インドネシアが事例の発表継続は続けることを保証したと発表している。昨日カナディアンプレス (CP) が報道している。

「昨日、ジャカルタのWHO事務所にスパリ保健相が、世界保健規則に従って、感染確認事例をWHOに報告することを継続する、との公式通知が届いている」、とヘイマン氏は CP に語っている。

「彼女は国際保健規則に反することは企てていないし、インドネシアの立場も良く理解している。彼女はなぜ世界保健規則があるのか承知していると語っている」。

今日のA P通信では、ヘイマン氏の類似のコメントを伝えているが、同通信では、ヘイマン氏が、政府が事例を公表するまで数週要しても構わないと言っている。そしてその条件として”ウイルスが知られ、適切に処理されている限り”としている。同氏はまた、インドネシアは国際保健規則を無視しているようではないとも語っている。

世界保健規則はWHO加盟国全てに承認されているが、そこでは政府は世界的健康危機につながる事例の速やかなWHOへの報告が義務づけられている。特に新型インフルエンザはその中でも重要な感染症となっている。

インドネシアは2007年初めからWHOと関係がぎくしゃくしている。スパリ保健相が今後分離ウイルスのWHOへの提出はしないと宣言したからだ。同国は、同国から提出されたウイルスで作成されるワクチンの、同国への提供の保証を求めている。WHOは数十年間に亘り、新規ウイルスの同定、ワクチン開発、薬剤耐性の監視等の必要性から、各国へ分離ウイルスの無償の提供を求めてきている。